

第5学年

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書くことに課題がある。 説明文・物語文の内容や要旨をとらえながら読み取る学習に課題がある。 漢字学習の定着までに時間がかかる児童や、既習漢字の活用が不十分な児童が多く、手立てが必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を分かりやすく伝えるために、相手や目的を意識して書くための力を付ける指導が大切である。 文章の内容を的確におさえて要旨をとらえ、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、読む力を付けるための指導が必要である。 学習した漢字を意識して使うように習慣付ける指導が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が書きたいと思える題材を工夫する。起承転結や始め・中・終わりなどの構成を意識させる。冒頭部や終結部の書き方を工夫するように課題や日記の良い書き方を紹介するなど表現方法を広げる指導をしていく。 筆者の思いや考えが分かる言葉や文章にサイドラインを引き、読みの手掛かりとする。普段から文章に親しむために、読書活動や音読活動を家庭とも連携して進めていく。 朝学習の時間や家庭学習を使い、漢字の学習ノートに練習し、新出漢字の様々な熟語に触れ、活用能力を伸ばす。日記や普段の書く学習でも既習漢字を使うように指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土を地図や地球儀、資料などを活用して調べる学習に課題がある。 資料を読み取ったり、資料を活用したりして、自分の考えや意見をもち、学習したことをまとめる力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 名称や位置を調べるだけでなく、世界の中における我が国の国土の様子を捉え、産業に関する学習などにおいて活用できるようにする指導が大切である。 資料を適切に活用し、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、課題を把握して選択判断する力、それを基に議論する力を養う指導が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料の活用の仕方を指導し、繰り返し学習する。また、産業に関する学習において、各種資料を活用できるように、学習の問題を追究・解決する活動や見方・考え方を働かせ表現させる活動を設定する。 見方・考え方を働かせて、気付いたことや考察をノートに書かせる。また、社会に見られる課題を把握し、よりよい社会を考え学習する活動を設定することで日常と関連させて、情報を適切に調べまとめる力を指導する。また、自主的な調べ学習を取り入れ、まとめた事を発表する授業を展開する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算や図形などの基礎学力について個人差がある。 問題解決をする際、自分の考えを表現したり、相手の表現から理解したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導を進め、児童の理解や習熟の程度、興味・関心に合った学習の中で、定着を図ることが必要である。 考えを伝えるには論理的であること、場面によって表現を工夫することが大切である。これらを年間通して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の中で、児童の理解や習熟の程度、興味・関心などに応じたきめ細かな指導の充実を図り、習熟度に合わせて基礎的な問題や応用問題を選び指導する。また、朝学習、ユニットの時間、家庭学習を活用し、基礎学力の定着と習熟を図っていく。 東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。 言葉、図、式などを様々な考え方を授業で取り上げ、それらの表現のつながりや場面による表現のよさについて指導する。

理科	<ul style="list-style-type: none"> 条件を整理して観察・実験方法を論理的に考えることに課題がある。 知識が先行してしまい、実感を伴った理解をすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の授業を行うことが大切である。 実際に見る、実験する、実感することを大切に指導することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「問題を設定する→予想・仮説を設定する→調べる方法を考える→結果の見通しを把握する→観察・実験する→結果を整理する→考察する→結論を導く」を年間通して行っていく。 予想や仮説を基に、条件を整理して解決方法を考えさせる。 自然に親しむ活動や体験活動、製作活動を各単元の目標に合わせて積極的に取り入れる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に対する興味関心は高く意欲的であり、響きのある声で歌ったり、リコーダーを演奏したりする様子が見られる。しかし、楽曲にふさわしい歌声や音色で表現をすることに課題がある。 鑑賞に関しては、楽曲の構造や特徴を分析的に聴くことができる。しかし、楽曲から感じ取ったことを文字や言葉で表現することが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声法や楽器の基本的奏法を学び、歌声や音色について理解を深める。また、楽曲にふさわしい歌声や音色について考え、表現の工夫につなげていく。 音楽の諸要素と関連させた聴くポイントを明確にもたせてから、聴く活動に取り組む。また、感じ取ったことを発表し合い、友達と意見を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい発声法や奏法が身に付くように、簡単な演奏から取り組ませていく。リコーダーでは、フレーズに重点を置いて指導をする。楽曲の曲想や、曲想と歌詞の内容の関わりについて、根拠をもって考えたり、意見を交流したりさせ、思いや意図をもって表現活動ができるようにする。また、友達と演奏を聴き合うことで、楽曲にふさわしい歌声や音色に対する意識を高めていく。 聴くポイントを絞り、漠然と聴くことのないような授業展開やワークシート等を工夫する。ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達と意見を交流する中で、考え方や言語活動を広げていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 規律を守って授業に参加することができている。また、様々な材料を使って自分が表したいものを工夫して表現する力が身に付いている。課題に対して一生懸命向き合う気持ちが見られるが、自分の表現したい思いに技能が追いつかず、完成まで計画的に作業を進めることに課題がある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた材料や用具を、題材に合わせて適切に扱うことができるようにすることが大切である。また計画的に授業の見通しをもてるよう作業の手順を確認できる環境づくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めて題材に出会う感動を大切に、「つくりたい」という気持ちが完成まで継続できるように制作過程の手順を示し見通しをもたせる。扱う材料や道具に応じた技術を身に付けられるよう、全体に向けてポイントを絞った指導をする。また、個別に教師の言葉かけを行い、全員がスムーズに作業を進められるようにする。授業の流れの見通しがもてる板書や、常に作業手順を視覚的に確認できる掲示物を提示する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 初めて習う家庭科に、前向きに取り組む児童が多く料理や裁縫への関心も高いが、家庭生活での経験によって技能面で個人差がみられる。 実習では、教え合ったり助け合ったりする姿が多くみられるが、一人一人の技能の定着を図る工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住に関する基本的な知識や技能を身に付け、豊かで楽しい家庭生活を送ろうとする態度を大切にする。 技能を身に付けられる実習の場を大切に、一人一人が主体的に取り組み、達成感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理や裁縫などの実習を通して、達成感や充実感が味わえるようなめあてや教材を工夫する。 主体的に取り組むために、絵やカード、作品の見本、電子黒板などを活用して作業の手順を明確にする。 調理実習では、一人一人に役割を意識させ、基本的な技能が身に付けられるようにする。 助け合ったり振り返ったりする時間を作り、互いの良さを感じ合いながら全体の力を高めていけるように工夫する。
育体	<ul style="list-style-type: none"> どの単元でも意欲的に運動に取り組む児童が多いが、めあてを明確にもたずに運 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適しためあてをもたせ、その目標に向かって学び合いながら活動を進めて 	<ul style="list-style-type: none"> 技能面での重点をスモールステップで示し、ペア・トリオ、チームやグループでの教え合いを活発にする。

	<p>動している児童への手立てが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの領域での技能ポイントを把握できず、運動の特性（楽しさ）を十分に味わえない児童への手立てが課題である。 	<p>いく指導が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者が個々の児童の特性を理解し、練習の時間に技能ポイントや動き方を示し、友達同士の教え合いを活発にさせることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、めあての振り返りをしながら運動できるようにする。 運動がもつ楽しさを味わえるよう、児童の能力に応じたスモールステップの場の設定や、補助運動から主運動に繋がる展開を工夫する。 児童同士の教え合いの場を計画的に設け、互いに見合いながら技能を高め合えるようにする。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 何のために活動するのか、課題がはっきりしないまま学習が進んでしまう児童への手立てが課題である。 体験したことを日常生活に生かすまでには至っていないことが多いことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験や社会体験、観察・実験、見学や調査など既習の学習を基に、実生活や実社会と結び付けて学習課題を見いだすことが大切である。 体験したことを自らの生活に結び付けられるようにして、学んだことを日常に生かすことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する事柄が児童の興味・関心が高まるものであるか、また、児童が自ら課題をもち、課題を解決するのにふさわしい探究課題であるか検討する。 学習活動を設定する際に、実生活や実社会との結びつきを考えたり、今までに体験したことや経験したことを振り返ったりしながら自ら問いを見いだせるよう指導の工夫をする。 体験したこと日常生活に生かせるよう、学んだことを意図的に結びつけた学習を進めていく。その際、年間指導計画と各教科、総合的な学習の時間で学ぶ事柄を相互に関連付け、教科横断的な学習になるよう計画を立てる。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にコミュニケーションを図れるようにするための児童への手立てが課題である。 指導内容（コミュニケーション・異文化理解）のバランスの工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰とでも進んでコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。 本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を用いた言語活動を通して、体験的に楽しみながらコミュニケーションを図れるようにする。段階的にめあてを設定し、歌やチャンツ、アクティビティの中で交流や動作等を取り入れて行う。学習のめあてや自己評価の振り返りカードも活用する。 1対1の対話・グループ内での対話など、対話や発表の機会を取り入れる。また、会話表現を使ってアクティビティを行うときは、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定して行う。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値について、他者の考えを受け止めながら、自分の考えを深めることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値について自分事として考えたり、他者の考えを受け止めたりすることで、自己の特徴を知り、深く見つめられるようにすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えたくなるような発問を工夫し、ワークシートを活用して自らの考えをもち、表現できるようにする。 ペアや小グループでの意見交流をし、自分の考えを振り返る場をもつことで、生き方についての考えを広めたり深めたりできるようにする。